

Jマテ.カッパープロダクツ 株式会社

DX宣言書

2026年9月1日
Jマテ.カッパープロダクツ 株式会社
代表取締役社長 山本 耕治

□ 経営理念(企業理念)

循環型社会の責任ある担い手として、限られた資源の有効活用を通じ、持続可能な社会の実現に貢献します

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ サステイナブルビジョン2050の実現に向け、DXを活用した業務変革と持続的な企業価値の向上を推進します
- ◆ ものづくり力の強化に向け、生産性向上、技術継承及び人材育成を加速します
- ◆ 地域企業や産学官金との連携を通じて地域のDX発展に貢献し、「めぐる資源、つながる未来。」の実現に向け、地域に選ばれる企業を目指します

□ DX戦略・施策

【社内DX】

戦略 「デジタル技術を活用し、知識の見える化、人材育成及び安全で働きやすい職場づくりを推進」

- 施策
- ・ 安全・品質・環境及び技術に関する知識を、誰もが必要なときに活用できる環境を整備するため、構造化ナレッジとして体系化し、AIによる学習・検索・再利用を推進
 - ・ 若手や外国人を含む社員の教育と技能継承を効率的かつ確実に進めるため、動画教材、多言語コンテンツ及び翻訳機能を活用
 - ・ 社員の知識習得と取引先への銅合金ナレッジの提供を進めるため、ブログ・メールマガジンを継続的に作成し、ホームページに必要な情報にたどり着ける知識発信の基盤として整備

戦略 「生産性向上と業務変革を推進」

- 施策
- ・ 生産性の向上及びコスト競争力の強化を図るため、改善活動とデジタル技術を組み合わせて業務を変革
 - ・ 迅速な意思決定、異常の未然防止及び安定生産を実現するため、部門横断の業務データ並びに製造・品質・設備データの見える化と業務標準化を推進

【社外DX】

戦略 「自社のDXで培った知見を発信し、地域企業のDX推進を後押し」

- 施策
- ・ DX事例やプロセスを改善モデルとして発信し、地域企業が実践できるよう助言・伴走支援を推進
 - ・ 人材育成と多様な人材の活躍を支援するため、多言語対応やAI活用等の仕組みを発信し、関係機関と連携

戦略 「DXを活用した新たな価値創出に挑戦」

- 施策
- ・ 新たな機会やサービスの可能性を探索するため、DX推進で得られた知見を活用
 - ・ 提供価値の向上と付加価値の高い製品・サービス創出に向け、顧客ニーズや市場動向を分析

【地域プラットフォーム構築】

戦略 「地域DX共創プラットフォームを構築し、持続的発展に貢献」

- 施策
- ・ DX認定事業者・地域企業・教育機関・行政・金融機関との連携を深め、地域DX推進の基盤を構築
 - ・ 改善とDXの実践ノウハウを共有し、地域内で知識や人材が循環する仕組みづくりを推進

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役社長を統括責任者とし、情報セキュリティを含む機能を備えた経営企画室を中核として、各部署と連携しながら全社的にDXを推進
- ・ 各部署がDX改善目標を設定し、プロジェクトリーダーを中心に全社横断のDXプロジェクトを推進
- ・ 改善活動や成果を評価し、継続的な改善文化の醸成と人材育成を進めるため、提案表彰制度とDX活動を連動

□ DX推進目標

- ・ 各部署が設定したDX改善目標の完遂 : (2028年8月まで)
- ・ DX認定事業者・地域企業・教育機関・行政・金融機関との連携を拡大し、セミナーや伴走支援、地域連携イベントの開催・協力を推進 : 年4回以上(2026年9月から)
- ・ ナレッジ基盤及びAI活用コンテンツの継続拡充 : 累計1,500件へ拡充(2028年8月まで)



第四北越銀行